

施策5-1 観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ			
施策主管局	経済観光文化局	関連局	農林水産局、住宅都市局
施策の課題			
九州新幹線鹿児島ルート全線開通などにより、九州における集客力はさらに高まっています。また、特に天神・博多の二大商業地域には、九州だけでなくアジアからも、多くの人が観光や買い物などに訪れています。 しかし、今後の都市間競争を勝ち抜いていくためには、豊かな自然や歴史的遺産などの観光資源をさらに磨き上げ、九州各都市や民間事業者と一体となったプロモーション活動、回遊性の向上などによる観光しやすい環境づくりなどを、戦略的に推進していく必要があります。			
施策の方向性			
福岡市が有する歴史文化資源を市民の財産として保存・整備し、アジアとの交流や祭り、コンサートや観劇、展覧会などのさまざまなイベント、美しい街並み、商業施設、食文化や自然環境などと共に、福岡市の貴重な観光資源として、誰もが親しみやすいストーリー性を付加しながら磨き上げるなど、官民一体となった集客戦略を推進します。 また、福岡都市圏や九州各都市と連携し、それぞれがもつ特色ある観光資源を合わせ、エリアとしての魅力向上を図ります。			

《施策事業の体系》 ★：新規事業、◆：区事業 / 太字：重点事業、細字：主要事業、[]：その他の取り組み

●福岡の歴史資源の観光活用

- 日本で唯一の歴史資源活性化事業（鴻臚館・福岡城、元寇防塁、志賀島等）
- 鴻臚館・福岡城の整備〔鴻臚館跡整備基本計画事業、福岡城跡復元整備事業〕
- 吉武高木遺跡環境整備事業
- 庚寅銘大刀保存活用事業
- ◆博多ライトアップウォークの推進＜再掲：博多区＞
- ◆地域密着型の集客・まちづくり＜再掲：博多区＞
- ◆中央区歴史・文化を生かしたまちづくり推進事業＜再掲：中央区＞

●祭り・食・文化・エンターテインメント魅力の磨き上げ

- **アジアンパーティ**〔クリエイティブフェスタ＜再掲7-3＞、アジアフォーカス・福岡国際映画祭＜再掲7-3＞、福岡アジア文化賞＜再掲8-6＞〕
- **農水産物のブランド化の推進**〔市内産農畜産物6次産業化推進事業、福岡産花き海外プロモーション事業、水産業ブランド創出事業〕＜再掲6-4＞
- おもてなし推進事業（終了）
- 動植物園再生事業＜再掲4-4＞
- 美術館リニューアル事業＜再掲1-4＞
- 特色ある公園づくり事業（友泉亭、金印公園、海の中道海浜公園）＜再掲4-4＞
- ◆さわら魅力アップ事業（サザエさん通りを生かしたまちづくり、さわらの秋等）＜再掲：早良区＞

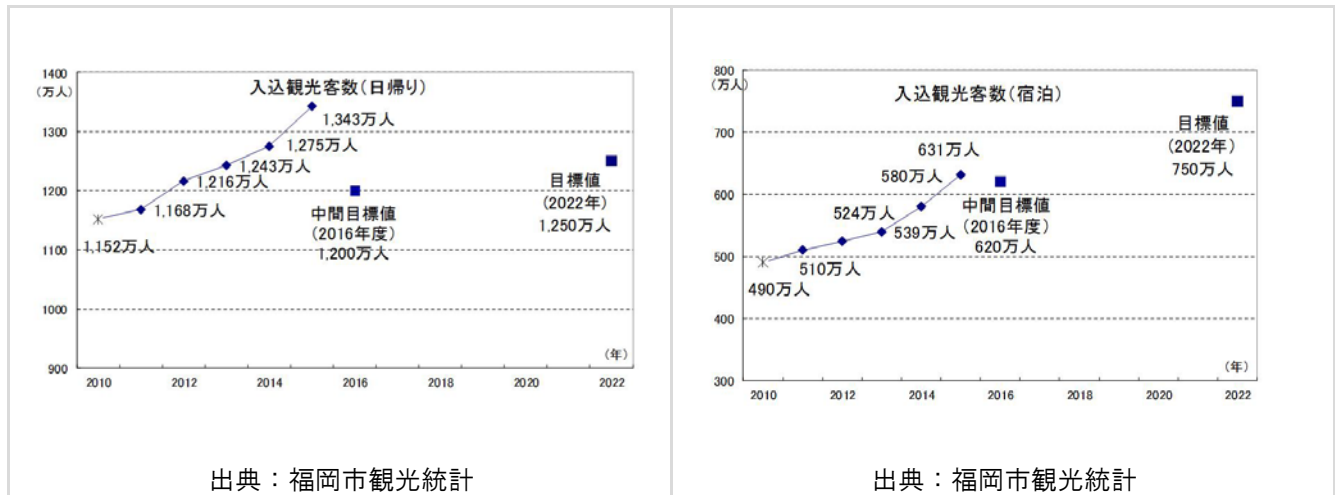
1 施策の評価

◎：順調	・鴻臚館・福岡城エリアの回遊性向上、志賀島周辺エリアにおけるサイクルツーリズムの振興に向けた地域事業者等との連携、アジアンパーティの開催、「福岡よる旅」サイトによる夜の魅力の発信、動物園のリニューアルなどの取り組みは、歴史・文化・自然などの観光資源としてのさらなる磨き上げ・集客促進に向けて、順調に進んでいる。 ・成果指標は、いずれも中間目標を達成するなど、順調に推移している。
------	---

2 施策の関連指標の動向と分析

《成果指標》

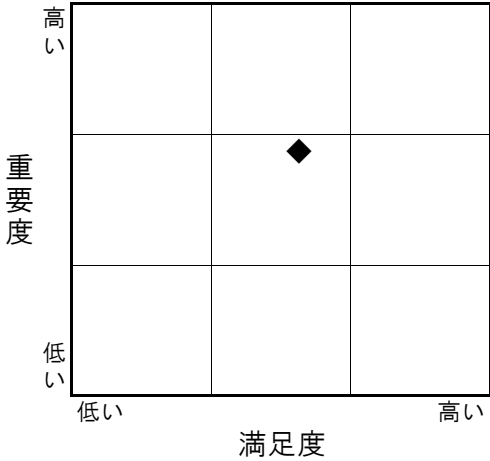
指標	初期値	現状値	中間目標値 (2016年度)	目標値 (2022年度)	達成状況
入込観光客数（日帰り）	1,152 万人 (2010年)	1,343 万人 (2015年)	1,200 万人	1,250 万人	(A)
入込観光客数（宿泊）	490 万人 (2010年)	631 万人 (2015年)	620 万人	750 万人	(A)



《市民満足度調査（2015年度調査）》
観光資源となる魅力の磨き上げ
（観光・集客の推進）

満足度		重要度	
満足	30.3%	重要	52.9%
不満足	16.7%	非重要	8.2%
どちらでもない	49.7%	どちらでもない	34.9%

満足度と重要度の分布(平均評定値)【9区分評価】



指標等の分析
【成果指標】 ・H27は、インバウンドやMICEの増加、外航クルーズ船寄港回数的大幅な増加などにより、日帰り観光客、宿泊観光客ともに増え、入込観光客全体としては、前年から119万人（6.4%）増の1,974万人となり、4年連続で過去最高を更新した。 ＊入込観光客数（全体） H22：1,642 万人→H27：1,974 万人 ・特に宿泊観光客は、外国人宿泊者の増加などにより、前年から51万人（8.8%）増の631万人となった。なお、H28 における市内の宿泊施設（従業者数10 人以上）の客室稼働率は、年平均84.3%（観光庁調査結果）となっており、引き続き上昇傾向にある。（H25：76.6%，H26：80.4%，H27：83.2%）

3 取組みの進捗状況・課題と今後の方向性

●福岡の歴史資源の観光活用

鴻臚館・福岡城への集客向上に向けた取組み

- 【進捗】・博物館と連携し、圧切長谷部特別展開催に合わせ、関連するゲームキャラクターとのコラボ企画を実施することにより、福岡城むかし探訪館、三の丸スクエア、博物館との回遊性向上に努めた。
・NP0 や大学等と共働で、外国人向けの福岡城を舞台としたゲームの実施や、学生主体のイベント実施など、外国人向け魅力発信、市民・若者への啓発を図った。
・セントラルパーク基本計画の検討において、鴻臚館・福岡城を活用したソフト施策の検討を行った。
・H26n に策定した「国史跡福岡城跡整備基本計画」に基づき、福岡城南丸多聞櫓保存修理工事及び扇坂の発掘調査を実施した。
・鴻臚館跡整備基本計画の検討を行った。
・特に舞鶴公園内で開催された大規模イベントを活用し、鴻臚館・福岡城の周知・誘客を図った。
- 【課題】・鴻臚館・福岡城エリアの魅力向上を図るとともに、外国人観光客の受入環境整備を進める必要がある。
・鴻臚館跡の公開・活用に向けた適切な整備計画の策定、鴻臚館跡全容の未解明部分の計画的な調査が必要。
・史跡の周知を進めるとともに、市民や観光客が史跡を身近に感じ、楽しめるような取組みが必要。
- 【今後】・鴻臚館・福岡城を「使える・身近な史跡」として活用するとともに、歴史を感じられる魅力ある空間を活かしたユニークメニューとしての利活用を促進する。
・多言語によるガイドの促進や外国語での案内ツールの検討などを進める。
・H29nは、福岡城南丸多聞櫓（平櫓部分）の保存修復工事を実施するとともに、「福岡城整備基金」のPRを図り、市民と一体となった整備を推進する。
・H27.3 に策定した鴻臚館跡整備基本構想を踏まえ、整備基本計画をH29n に策定予定。
・セントラルパーク基本計画と連携しながら、整備・活用を実施する。

観光視点での元寇防塁の魅力向上

- 【進捗】・市観光情報サイト「よかなび」における元寇防塁の特集や福岡マラソンに合わせたのぼりの設置などにより、元寇防塁のPRを実施。
- 【課題】・地域や関係者と連携し、元寇防塁の魅力を活かした活用手法を検討する必要がある。
・交通アクセス向上の観点から、利便性の高い駐車場や誘導サインの整備が必要。
- 【今後】・元寇防塁に対する認知度を高めるためのPRや、歴史・文化資源、景色・景観などと組み合わせた回遊促進に向けて検討を進め、エリア全体の魅力向上を行い、観光客の誘致につなげる。
・松濤園跡地を今津元寇防塁駐車場として確保し、サインを整備するとともに、関係機関や地域住民と協力し、集客及び回遊性の向上を図る。

観光ルート・スポットとしての志賀島の集客促進

- 【進捗】・市観光情報サイト「よかなび」において志賀島特集を行い、PRを実施。
・志賀島周辺エリアにおけるサイクリング等を目的とした海外からの観光客が増加傾向にあることを踏まえ、地域事業者等によるサイクリングを含めた旅行商品造成の支援、海外メディア等の招聘、サイクリストの安全のための注意喚起板の設置など、エリアにおけるサイクルツーリズムの振興に向けた取組み等を実施。
- 【課題】・サイクリストのさらなる安全確保、観光地等への誘導や観光消費額の拡大などの受入環境の整備や、より一層のPRが必要。
- 【今後】・関係局と連携したサイクリストの安全確保のための取組み、観光スポットへの誘導板の設置。
・地域事業者等と連携し、国内外からの観光客に向けたPRや、店舗等での多言語対応推進など受入環境の整備。

●福岡の歴史資源の観光活用（前ページからの続き）

埋蔵文化財の観光資源としての活用促進

- 【進捗】・吉武高木遺跡については、H24nに着工した整備工事がH28n末に竣工し、H29.4の開園に向けて、式典準備や広報活動に取り組んだ。
・庚寅銘大刀については、活用に向けて、H28nは刀身全体の最終保存処理を完了するとともに、復元品を制作した。
- 【課題】・吉武高木遺跡については、発見から整備まで時間が経過しており、知名度が低下している。
- 【今後】・吉武高木遺跡については、まずは周知のためにH29.4月に開園オープニングイベントを開催するとともに、その後の観光資源としての活用のため、地下鉄駅での広告や歴史ボランティアとの連携、博物館とのタイアップ企画の開催等の積極的な広報・周知活動を展開する予定である。
・庚寅銘大刀保存活用事業については、H29nに詳細な報告書作成とレプリカ製作を予定。国指定の重要文化財になるよう文化庁と協議し、早い段階で福岡市博物館に常設展示できるよう努める。

●祭り・食・文化・エンターテインメント魅力の磨き上げ

アジアと創る新たな魅力づくり（アジアンパーティ）

- 【進捗】・「アジアと創る」をコンセプトに、アジアフォーカス・福岡国際映画祭、福岡アジア文化賞、クリエイティブフェスタの主要事業に加え、「アジア」、「クリエイティブ」、「今」をテーマとした民間企業・団体などの各種事業と連携を図りながら、9月～10月に集中開催（18事業、約57万人が参加）。
*アジアフォーカス・福岡国際映画祭：
312本（映像作品、関連企画含む）の優れたアジア映画を上映したほか、監督や出演者を招いたイベントを実施。
（来場者数：延べ40,286人（映像作品、関連企画含む））
*クリエイティブフェスタ：
市役所西側ふれあい広場で、「クリエイティブ・エンターテインメント都市・ふくおか」を国内外に広くPRする象徴的な事業として実施。
（来場者数：延べ64,000人）
- 【課題】・アジアンパーティは、H28nに4年目を迎え、参加人数・認知度について一定の成果が得られているが、今後も引き続き事業の背景・趣旨や目的の周知に努める必要がある。
- 【今後】・さらなる認知度向上、効果的な事業展開にむけて、民間企業・団体との連携強化を図る。
・アジアフォーカス・福岡国際映画祭については、アジアンパーティの主要事業の1つとして、映画だけでなく、映像分野を一体的に振興し、効果的な広報に努めることで、『クリエイティブ・エンターテインメント都市・ふくおか』のブランディングを推進する。
・クリエイティブフェスタについては、アジアンパーティの中核イベントとして開催し、さらなる集客とブランディングを図る。

福岡の夜の観光の魅力や楽しみ方のPR（福岡よる旅プロジェクト）

- 【進捗】・「福岡よる旅」ホームページや市観光サイト「よかなび」にて夜の魅力の情報発信を行った。なお、「福岡よる旅」冊子は、第4回ふるさとパンフレット大賞を受賞した。
- 【課題】・福岡の夜の観光については、更なる観光資源の開発が必要。
- 【今後】・関連部局と連携し、民間活力を導入したPRを検討する。

●祭り・食・文化・エンターテインメント魅力の磨き上げ（前ページからの続き）

ふくおかの”食”の磨き上げ

- 【進捗】・市内産農水産物の国内外へのPRや販路拡大のため、福岡市ブランド水産物である「唐泊恵比須かき」を軸にした海外プロモーション活動や、マーケティング拠点施設（博多家（ハカタハウス））を活用した海外一流シェフやバイヤーの招聘活動を実施。
・国内百貨店で開催された物産展への出店や東京都内飲食店でのPR活動を実施。また、国内外の食のイベントでのPR活動として、H28.11月に東京で開催された「東京ハーヴェスト」、H29.3月に香港で開催された「テイスト・オブ・香港」に参加した。
- 【課題】・現在、香港の複数の高級レストランへの「唐泊恵比須かき」や玄界島のワカメ、アワビ等市内水産物の出荷が進みつつあるが、国内市場においては、市内水産物の知名度は必ずしも高いとは言えないため、海外PRを継続しながら、国内向けブランド強化・販路拡大の取組強化が必要。
- 【今後】・市内産農水産物の海外PR活動及び海外一流シェフやバイヤーの招聘活動を継続しながら、国内向けブランド強化・販路拡大の取組として、関東圏で開催される食のイベントに参加しPR活動を実施する。

集客交流拠点としての美術館の魅力向上

- 【進捗】・新設するアプローチやカフェなどの改修にかかる設計について、市とPFI事業者との間で協議を行いながら進めた。
- 【課題】・ユニバーサルデザインへ対応するとともに、時代や市民のニーズに応える集客交流拠点として魅力向上を図ることが必要。
- 【今後】・H29.6からH30.9まで施設改修を行い、H31.3にリニューアルオープン予定。

博物館機能の歴史文化資源としての価値向上

- 【進捗】・博物館の企画展示国宝名物「圧切長谷部」の展示において、人気のオンラインゲームとコラボし、グッズの販売や、複数の市内施設との周遊企画を実施。全国各地、海外からも多数の来館があった。
- 【課題】・歴史・文化や集客交流拠点としての認知度をさらに高めることが課題。
・施設のユニバーサル化や多言語環境の充実など、インバウンド受入環境を向上させることが課題。
- 【今後】・歴史・文化や観光情報の発信拠点として様々なメディアを活用し積極的な情報発信を行うとともに、トイレの洋式化やシャワートイレの設置など施設のユニバーサルデザインへの対応や快適性の向上、ホームページ等の多言語情報充実を図る。
・H31nラグビーW杯、H32nオリンピック・パラリンピックに向け、博物館の収蔵品や福岡の歴史・文化資源と連動を図りながら、外国人観光客も楽しめるような魅力的な自主企画展を開催していく。

動植物園の魅力の向上（動植物園のリニューアル）

- 【進捗】・「センターゾーンエリア」のリニューアルに着手。H28nは、エントランス複合施設に着手。
- 【課題】・動物の個別の特徴や管理安全面に配慮しつつ、来園者の視点からの魅力づくりや「また来たい」と思わせる特別な仕掛けづくりが必要。
- 【今後】・人と地球にやさしい飼育及び植生環境と来園者の更なる利便性の改善を行うとともに、まちと自然が調和した快適な都市型動植物園へとリニューアルを推進する。
・今後、H32nまでに動物園正面エントランス部（センターゾーン）を中心に整備を行い、H33n以降は「アフリカの草原エリア」、「日本の自然エリア」をはじめとする区域を整備する。

4 重点事業

(1)日本で唯一の歴史資源活性化事業（鴻臚館・福岡城、元寇防塁、志賀島等）

目的	「日本に一つしかない」重要な歴史・文化資源（鴻臚館跡、福岡城跡、元寇防塁、志賀島など）を観光資源として更に磨き上げ、魅力向上に取り組んでいく。	H28事業費	36,889	千円	
		H29事業費	28,876	千円	
対象	福岡市内外	担当	経済観光文化局観光コンベンション部観光産業課・地域観光推進課		
実施内容	【鴻臚館、福岡城】 ・「福岡城むかし探訪館」及び「三の丸スクエア」を運営するとともに、デジタル回遊システム「バーチャル時空散歩」を活用したガイドツアーを実施した。バーチャル時空散歩については、スマートフォンでも利用できるようにした。 ・セントラルパーク構想に基づく基本計画の策定において、関係部局と連携して、鴻臚館・福岡城を活用したソフト施策の検討を行った。				
	【元寇防塁】 ・福岡マラソンの実施時に、元寇防塁の認知を高めるために、のぼりや横断幕を設置したほか、公衆便所補修を行った。				
	【志賀島】 ・地域事業者等による地域資源を活かした旅行商品の開発支援 ・海外メディアや旅行代理店担当者に対するモニターツアーの実施 ・サイクリストの安全のための注意喚起板の設置				
	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	デジタル回遊システムツアー参加者数	3,000	1,409	47.0%	
成果の指標	福岡城むかし探訪館及び三の丸スクエア来館者数	106,000	89,732	84.7%	
補足	－				

(2)鴻臚館・福岡城の整備①（鴻臚館跡整備基本計画事業）

目的	鴻臚館跡を適切に保存・整備し、その歴史的価値を確実に次世代に継承すると共に、多くの市民や観光客を引きつける場所にする。			H28事業費	3,761	千円	
				H29事業費	4,899	千円	
対象	国史跡鴻臚館跡	担当	経済観光文化局文化財部史跡整備活用課				
実施内容	・国史跡鴻臚館跡の保存・整備の具体的内容やスケジュールを示す基本計画の検討を行った。						
	・基本計画の内容については、学識経験者からなる「鴻臚館跡整備検討委員会」において、意見交換等を行った。						
	指標内容			H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	整備構想・計画の策定（単位：％）			90	90	100%	
成果の指標	鴻臚館跡展示館の入館者（単位：人）			30,000	25,917	86%	
補足	—						

(3)鴻臚館・福岡城の整備②（福岡城跡復元整備事業）

目的	福岡城跡の整備活用を推進し、歴史的資源を磨き上げることにより、観光・集客の拠点とするとともに、歴史的価値を後世に確実に継承する。 使える身近な史跡として活用し、ユニークベニューとしての利活用を促進する。		H28事業費	4,786 千円	
			H29事業費	71,545 千円	
対象	市民、観光客	担当	経済観光文化局文化財部史跡整備活用課		
実施内容	・扇坂の発掘調査の実施及び武具櫓の発掘調査報告書を作成した。				
	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	福岡城むかし探訪館及び三の丸スクエア来館者数	106,000	89,732	84.7%	
成果の指標	福岡城整備基金の寄付額（千円）	25,000	13,926	55.7%	
補足	—				

(4)吉武高木遺跡環境整備事業

目的	H29n当初に開園する吉武高木遺跡「やよいの風公園」の歴史的な価値や良好な自然景観を活かした観光資源としての魅力発信や活用推進を図る。	H28事業費		175,775	千円	
		H29事業費		9,807	千円	
対象	市民, 観光客	担当	経済観光文化局文化財部史跡整備活用課			
実施内容	・ H24nに着手した整備工事がH28n末に完工した。また, 一部開園地において地域を主体とした活用事業を行った。					
	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	整備工事完了面積 (㎡)	27,000	27,000	100%	a	
成果の指標	—	—	—	—		
補足	—					

(5)おもてなし推進事業（終了）

目的	福岡の夜の魅力の情報発信により、観光客に実際に訪れてもらい、福岡での夜の回遊や長期滞在（宿泊）を促進する。		H28事業費		40 千円
			H29事業費		0 千円
対象	観光客	担当	経済観光文化局観光コンベンション部観光産業課		
実施内容	「福岡よる旅」を活用した夜の魅力の情報発信。 ○「福岡よる旅」ホームページでの情報発信				
	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	ホームページ閲覧数	50,000	52,883	106%	a
成果の指標	—	—	—	—	
補足					

目標5 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている

施策5-2 緑と歴史・文化のにぎわい拠点づくり			
施策主管局	住宅都市局	関連局	経済観光文化局
施策の課題 自然や歴史を身近に感じることのできる大濠公園・舞鶴公園一帯は、福岡市の魅力の一つであり、都心に近い市民の憩いの場として、また観光・集客資源として活用する必要があります。			
施策の方向性 都心に近い貴重な緑地空間として広く市民に親しまれている大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用を図り、市民の憩いと集客の拠点づくりを進めます。特に舞鶴公園については、歴史文化資源である「鴻臚館跡」、「福岡城跡」の二つの国史跡を活用した整備を進めます。			

《施策事業の体系》 ★：新規事業、◆：区事業 / **太字：重点事業**，細字：主要事業，[]：その他の取組み

●市民の憩いと集客の拠点づくり（大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用等）

— セントラルパーク構想推進事業

— 鴻臚館・福岡城の整備〔鴻臚館跡整備基本計画事業、福岡城跡復元整備事業〕＜再掲5-1＞

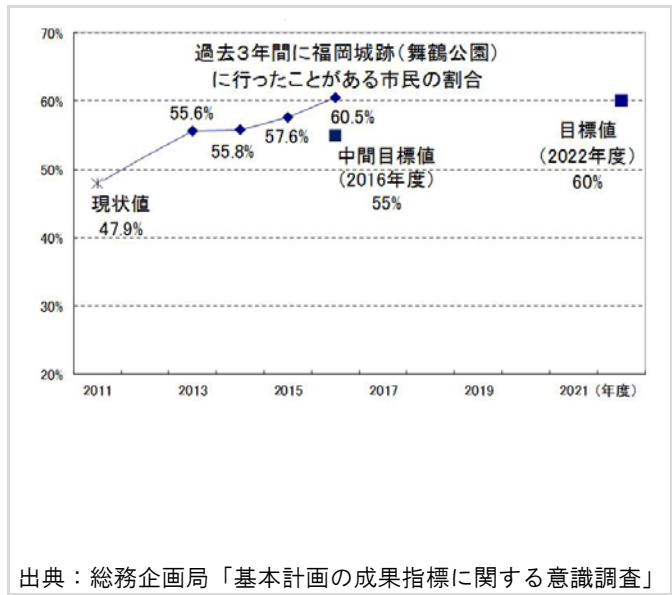
1 施策の評価

◎：順調	・セントラルパーク基本計画策定に向けた検討委員会の開催，賑わいづくりに向けたイベントの充実や手引書の作成，市民ボランティア等との共働による花壇植付けや石垣除草，見所づくりに向けたサクラ・ウメの活性化などの取組みは，複数の関係者が密に連携しながら実施できており，緑と歴史・文化のにぎわい拠点づくりの実現に向けて，概ね順調に進んでいる。 ・成果指標は中間目標を達成するなど，順調に推移している。
------	---

2 施策の関連指標の動向と分析

《成果指標》

指標	初期値	現状値	中間目標値 (2016年度)	目標値 (2022年度)	達成状況
過去3年間に福岡城跡（舞鶴公園）に行ったことがある市民の割合	47.9% (2011年度)	60.5% (2016年度)	55%	60%	A

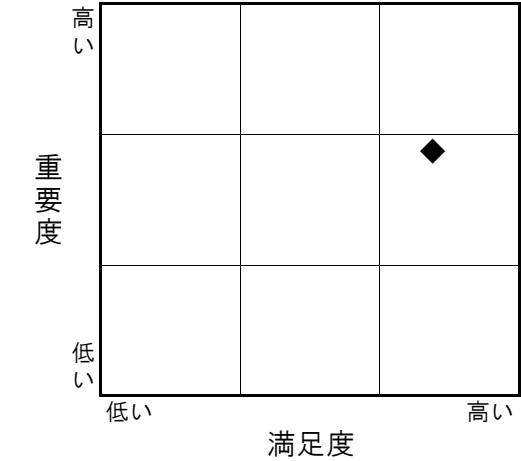


《市民満足度調査（2015 年度調査）》

緑と歴史・文化のにぎわいづくり
（大濠公園・舞鶴公園の整備と一定的活用）

満足度		重要度	
満足	36.5%	重要	46.6%
不満足	9.9%	非重要	9.9%
どちらでもない	50.2%	どちらでもない	39.4%

満足度と重要度の分布(平均評定値)【9 区分評価】



指標等の分析
・過去3年間に福岡城跡（舞鶴公園）に行ったことがある市民の割合は、中間目標値を上回っている。 ・関係者が連携した様々な取組みにより来園者が増加しているが、今後、各計画に基づく整備を進める中で、市民の関心や満足度がどのように推移するか注視する必要がある。

3 取組みの進捗状況・課題と今後の方向性

●市民の憩いと集客の拠点づくり（大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用等）

セントラルパーク構想を着実に推進するための計画づくり

- 【進捗】 ・「セントラルパーク基本計画」の策定に向けた検討委員会を開催。
・「鴻臚館跡整備基本計画」の策定に向けた検討委員会を開催。
- 【課題】 ・「セントラルパーク基本計画」を速やかに策定し、早期の整備着手が必要。
・鴻臚館跡の整備活用に向けた適切な「鴻臚館跡整備基本計画」の策定が必要。
- 【今後】 ・「セントラルパーク基本計画」をH29nに策定する。
・「鴻臚館跡整備基本計画」をH29nに策定する。

ポテンシャルを最大限に活かすための利活用の推進①（賑わいづくり）

- 【進捗】 ・イベントを充実させた。
*福岡城さくらまつりの拡充（16日間：過去最高の約42万人来場）
*新たなイベント受入れ（飲食、アウトドア体験、緑化啓発等）（H27n～）
・公園の利活用促進を図るため、イベント利用の手引き（試行版）を作成。（H29.3）
・両公園の回遊マップを作成〔指定管理者〕（H29.3）
- 【課題】 ・鴻臚館広場のイベント利用が少ない。
・市民や観光客が楽しめるソフト施策が十分ではない。
・鴻臚館・福岡城エリアの更なる魅力向上が必要。
- 【今後】 ・都心部最大級の広場空間（舞鶴公園西広場・鴻臚館広場）を活用しつつ、国史跡鴻臚館跡や福岡城跡、四季折々の花々を観光資源として活かしていくため、福岡城さくらまつりを核として、民間イベントも含め、季節を通じたイベントを展開する。
・鴻臚館・福岡城ならではの歴史を感じられる魅力ある空間を活かしたMICEレセプションや体験型イベントを誘致する。
・石垣等の撮影スポットの魅力向上など観光客が史跡を楽しめるメニューづくりに取り組む。

ポテンシャルを最大限に活かすための利活用の推進②（市民・企業との共働）

- 【進捗】 ・市民ボランティアと共働で、花壇植付け等を実施。
・福岡市造園建設業協会・福岡市緑化協会と共働で、石垣除草を実施。
・NPOや大学等と共働で、外国人向け魅力発信や市民・若者への啓発を実施。
・市民と一体となって福岡城整備を推進する「福岡城整備基金」について、ふるさと納税制度を活用しながら、市ホームページや文化財部フェイスブック等による広域的なPRに努めるとともに、各地の福岡県人会等と連携して、総会でのブース出展や会員へのリーフレット配布など、基金の収益及び認知度の向上を図った。
*年度毎寄付実績（カッコ内は目標額）
H26n：289件、8,225,019円（10,000,000円）
H27n：248件、8,955,834円（25,000,000円）
H28n：224件、13,925,957円（25,000,000円）
累計：761件、31,106,810円（60,000,000円）
- 【課題】 ・さらなる市民・企業等との共働の取組みが必要。
・福岡城整備基金の寄付額は年々増加しているものの、年度毎の目標額に到達していない。
- 【今後】 ・県民・市民、NPO、企業の知恵・労力・資金などを広く受入れ、効果的に活用していく仕組みづくりの検討を進める。
・福岡城整備基金について、寄付のリピーターを増やすとともに、大口寄付の拡大やイベント等とあわせたPRにより、基金の認知度を上げる取組みを推進。

●市民の憩いと集客の拠点づくり（大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用等）（前ページからの続き）
ポテンシャルを最大限に活かすための利活用の推進③（管理運営体制の強化）

- 【進捗】・県市連携組織である大濠・舞鶴公園連絡会議を開催。
 ・福岡城むかし探訪館と三の丸スクエアの一体的な運営を行った。
- 【課題】・両公園内の複数の施設管理者や関係部局が連携した一体的な管理運営の実現に向け、大濠・舞鶴公園連絡会議の充実・拡大が必要。
- 【今後】・大濠・舞鶴公園連絡会議の参加メンバーを拡大し、開催頻度を増やす。

利活用を支えるための取組み①（見所づくり・回遊性向上・機能充実）

- 【進捗】・史跡としての魅力向上のための見所づくりを実施。
 ＊本丸・二ノ丸等での樹木整理（H26n～H28n）
 ＊サクラの名所活性化（H23n～）、ウメの活性化〔指定管理者〕（H28n）
 ＊清掃用プレハブ詰所跡地の整備（H27n）
- ・史跡の保存修理の実施
 ＊母里太兵衛邸長屋門（H27.4）
 ＊多聞櫓（隅櫓部分）（H29.3）
- ・扇坂における発掘調査の実施（H28n）
- ・回遊性向上を図るための環境整備を実施。
 ＊天守台における階段改修・手摺付階段新設（H26n）
 ＊御鷹屋敷における園路改修・外周フェンス撤去等（H26n～H28n）
 ＊三の丸スクエア出入口増設（H27n）
- ・舞鶴中学校跡地の暫定活用による機能充実。
 ＊三の丸スクエア（福岡城・鴻臚館案内処）開所（H26.11）
 ＊駐車場（一般車240台、大型バス15台）開設〔国による整備、民間運営〕（H27.8）
- ・鴻臚館広場（約3ha）の供用（H28.3）
- ・トイレ（1ヶ所）における音声案内装置設置（H28n）
- 【課題】・計画的な財源確保が必要。
 ・福岡城・鴻臚館の遺構の全容解明が必要。
 ・樹木の整理や修景・再整備に関する市民の理解（緑への愛着、生物多様性等）が必要。
- 【今後】・ICTを活用した多言語案内を含めてサイン計画を策定する。
 ・基本計画に基づき公園整備や史跡の復元整備を推進する。
 ・計画的に発掘調査を実施する。
 ・樹木整理等について、丁寧に周知等を行いながら進める。

利活用を支えるための取組み②（非史跡施設の城外移転）

- 【進捗】・福岡高等裁判所の移転を事業化。
 ＊債務負担行為等の議決（公園整備H30n～H35n予定）（H26.9）
- ・城内住宅の移転。
 ＊進捗状況：140区画／196区画（約71％）が移転済（H29.3現在）
- ・清掃用プレハブ詰所の解体（H27n）
- 【課題】・計画的な財源確保が必要。
- 【今後】・福岡高等裁判所の移転については、関係機関と連携しながら着実に進めていく。
 ・城内住宅については、計画的に移転事業を進める。

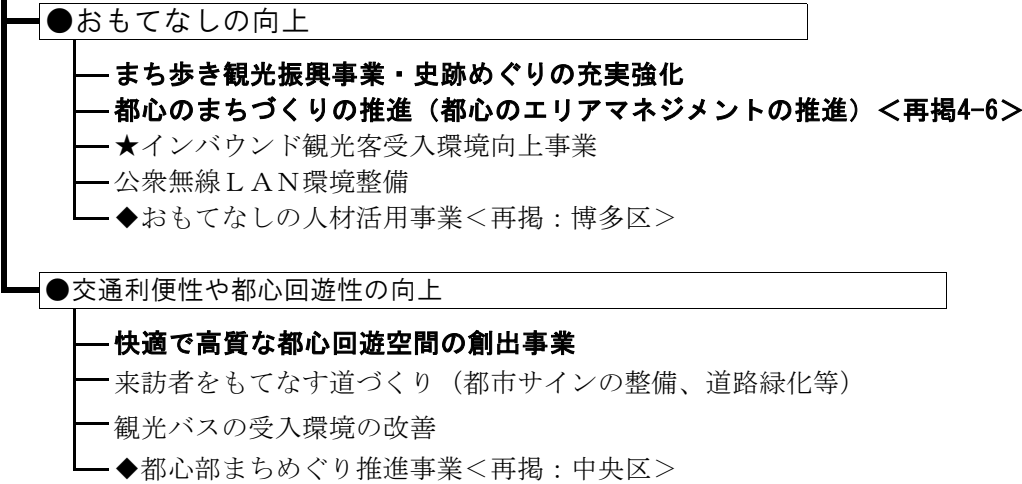
4 重点事業

(1) セントラルパーク構想推進事業

目的	①大濠公園・舞鶴公園が一体となって、日常的な憩いの場として利用されている状態		H28事業費	259,774	千円	
	②両公園が本市の貴重な観光資源として磨き上げられ、魅力的な観光地となり、福岡の一泊の目的地となっている状態		H29事業費	547,912	千円	
対象	①県民・市民 ②国内外からの来街者	担当	住宅都市局みどりのまち推進部みどり政策課			
実施内容	・「セントラルパーク基本計画」の策定に向けた検討委員会を開催。 ・「鴻臚館跡整備基本計画」の策定に向けた検討委員会を開催。 ・賑わいづくりに向けたイベントの充実。 *福岡城さくらまつりの拡充（16日間：過去最高の約42万人来場） *新たなイベント受入れ（飲食、アウトドア体験、緑化啓発等） ・公園の利活用促進を図るため、イベント利用の手引き（試行版）を作成。 ・両公園の回遊マップを作成 ・市民ボランティア、造園関連団体、NPO福岡城市民の会との共働による事業を実施。 ・市民と一体となって福岡城整備を推進する「福岡城整備基金」の寄付促進の取組みを実施 *H29.3.31現在：寄付件数761件、寄付金額31,106,810円 ・県市連携組織である大濠・舞鶴公園連絡会議を開催。 ・回遊性向上を図るための環境整備を実施。（御鷹屋敷での園路改修等） ・史跡としての魅力向上のための見所づくりを実施。（サクラ・ウメの活性化等） ・史跡の保存修復の実施（多聞櫓（隅櫓部分）） ・扇坂における発掘調査の実施					
	指標内容		H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	セントラルパーク基本計画の策定		100%	60%	60%	a
成果の指標	過去3年間に福岡城跡（舞鶴公園）に行ったことがある市民の割合		55%	61%	110%	
補足	－					

施策5-3 情報アクセスや回遊性など、来街者にやさしいおもてなし環境づくり			
施策主管局	経済観光文化局	関連局	市長室，住宅都市局，道路下水道局
施策の課題			
福岡市では、来街者の増大に伴い、ホテル・旅館の施設数及び客室数共に増加傾向が続いています。近年、外国人の来訪が増加する中で、外国語対応、外国語案内表示などの課題もあります。			
施策の方向性			
おもてなしの心を醸成するための市民参加事業や啓発事業，観光ボランティアの充実などにより，市民一人ひとりが誇りと自覚をもてる観光都市福岡づくりを進めます。 また，交通利便性の向上やユニバーサルデザインの普及などにより，快適にまちめぐりができ，外国人を含め多くの人が何度でも行ってみたいと感じる環境づくりをめざします。			

《施策事業の体系》 ★：新規事業，◆：区事業 / 太字：重点事業，細字：主要事業，[]：その他の取組み



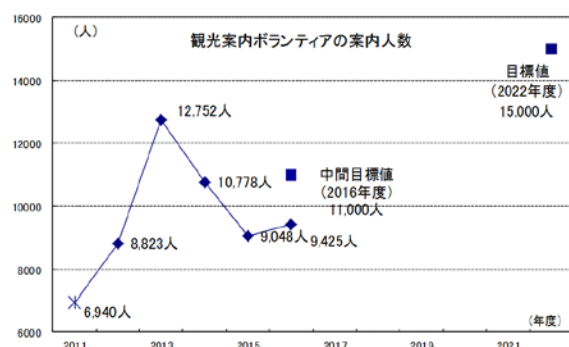
1 施策の評価

○：概ね順調	・まち歩きガイドの拡充，観光情報サイト「よかなび」によるスマートフォンでの観光情報の提供などの取組みは，順調に進んでいる。 ・成果指標は，「観光案内ボランティアの案内人数」は中間目標に届いていないものの，観光客等からのガイド派遣依頼及び外国人の案内人数は増加している。また，「観光情報サイトのアクセス数」は，スマートフォンからの利用に対応したサイトリニューアルの結果，スマートフォンでの訪問数は増加している。
--------	--

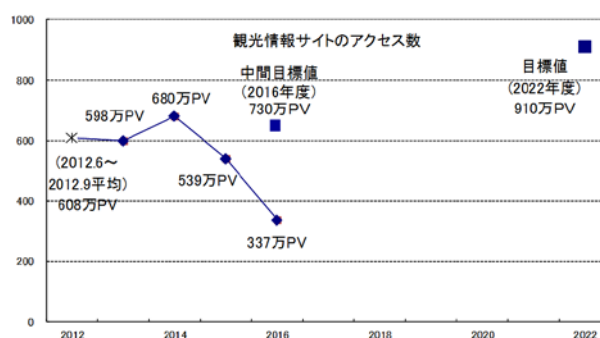
2 施策の関連指標の動向と分析

《成果指標》

指標	初期値		現状値	中間目標値 (2016年度)	目標値 (2022年度)	達成状況
観光案内ボランティアの案内人数	6,940人 (2011年度)	8,823人 (2012年度)	9,425人 (2016年度)	11,000人	15,000人	B
観光情報サイトのアクセス数（観光情報サイト「よかなび」の月間ページビュー）	608万PV (2012年6月～9月平均)		337万PV (2016年6月～9月平均)	730万PV (2016年6月～9月平均)	910万PV	C



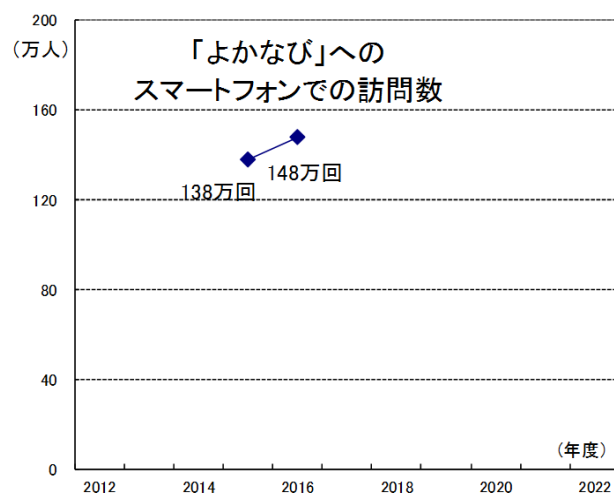
出典：福岡市経済観光文化局調べ



出典：福岡市経済観光文化局調べ

《補完指標》

指標	初期値	現状値
「よかなび」へのスマートフォンでの訪問数	138万回 (2015年度)	148万回 (2016年度)

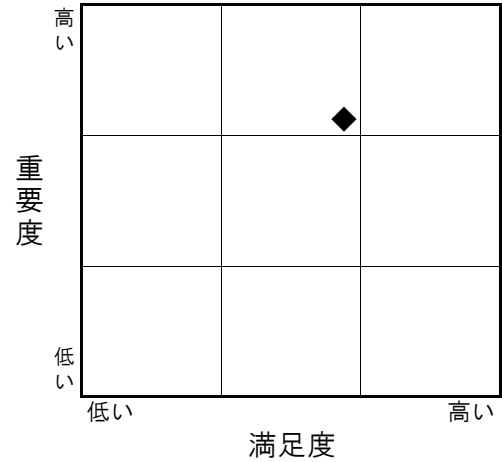


出典：福岡市経済観光文化局調べ

《成果指標》
《市民満足度調査（2015年度調査）》
来街者にやさしいおもてなし環境づくり

満足度		重要度	
満足	27.2%	重要	51.1%
不満足	11.8%	非重要	8.1%
どちらでもない	57.4%	どちらでもない	37.0%

満足度と重要度の分布(平均評定値)【9区分評価】



指標等の分析
【成果指標】 ・観光案内ボランティアの案内人数は、前年度比377人増の9,425人となった。その内数である派遣型ガイドによる案内人数及び外国人の案内人数が増加した。 *派遣型ガイドによる案内人数 H27：4,278人 → H28：4,833人 *外国人の案内件数 H27：137件 → H28：428件 【補完指標】 ・成果指標のうち観光情報サイトのアクセス数（PV数）の対象となっている「よかなび」については、スマートフォンの急速な普及に対応し利用者がより情報を得やすくするために、少ないページ間移動でストレス無く目的とするページへたどり着けるように、また、各ページ内の情報も見やすいように、H28.4に全面リニューアルを行った結果、PV数が減少した。 このため、これまでのPV数（「よかなび」サイト内の各ページへのアクセス数の合計）での経年変化把握が意味をなさなくなった。 この状況に対応するため、新たに「スマートフォンでの訪問数」を補完指標として設定した。 なお、スマートフォンでの訪問数は、サイトリニューアル前よりも増加している。

3 取組みの進捗状況・課題と今後の方向性

●おもてなしの向上

まち歩きガイド内容の拡充

- 【進捗】・観光客の依頼に応じた派遣ガイドや企画募集型まち歩きガイド、市の観光施設等での観光案内・定時ツアーを実施。
 ＊H28n：案内件数：1,054件，案内人数：9,425人
 ・福岡市内の様々な地域の魅力を再発見してもらうため，都心部以外の地域についても，新コースを開発し，まち歩きを実施。
 ＊H28n：13コース開発
 ・外国語対応可能なガイドの確保のため，外国語ができる観光案内ボランティアの新規募集を行ったほか，外国人観光客向けの観光コースの開発を行った。その際，留学生を活用して既存コースの検証を行った。
 ・まち歩きアプリ「福岡歴史なび」については10ルートを設定・案内している。
- 【課題】・「まち歩き」ガイドについて，案内人数増加に向けて，新たな地域の魅力を発掘し，観光客の様々なニーズに応じた観光案内を行うとともに，増加する外国人観光客へ対応するため，外国語での観光案内を行う必要がある。
 ・「福岡歴史なび」については，デジタル技術の進展へ対応する必要がある。
- 【今後】・通訳ボランティアガイド（ウェルカムサポーター）などとの連携により外国人向けガイドツアー及び多言語による定点ガイドの定番化を図る。
 ・新コースの開発等によりガイド内容の拡充を行なうとともに，観光客への周知を図るため広報を強化する。
 ・「福岡歴史なび」については設定している未公開ルート（6ルート）を順次公開し，デジタル技術の機能改修を図る。

官民共働による外国人の受入環境整備

- 【進捗】・ぐるなびとの包括連携協定による，インバウンド対策セミナー（46名参加）を開催。
 ・ライオンズクラブ国際大会開催時に多言語対応飲食店マップ配布（5エリア計1万部）。
- 【課題】・受入体制の強化については，観光施設や宿泊施設，交通機関，飲食店等と連携して取り組む必要がある。
- 【今後】・民間企業と連携しながら，IoTの活用等による外国人観光客の回遊性や利便性の向上に取り組むなど観光産業の振興を図るとともに，インバウンド対応や宿泊施設等の供給力強化など受入環境の充実を図る。

観光情報サイト「よかなび」による質の高い観光情報の提供

- 【進捗】・画像を中心とした体系的なコンテンツの再整理やスマートフォンなどの端末環境への十分な対応など，閲覧者視点に立ったリニューアルを実施し，H28.4より新バージョンへ移行した。
- 【課題】・観光による経済効果が様々なエリアに行き渡るよう，情報発信に取り組んでいくことが必要。
- 【今後】・様々なエリアの旬のコンテンツの発信に加え，外国人観光客のニーズを踏まえたコンテンツを作成し，多言語で発信することなどにより，サイト利用者の興味を喚起するほか，外国人観光客をはじめとする来福者に，「今日楽しめる」イベント情報等をわかりやすく発信し，福岡市内における回遊性の向上や地域における消費拡大に繋げていく。

● 交通利便性や都心回遊性の向上

都心回遊性の向上

【進捗】 ・ 快適で高質な都心回遊空間の創出にあたり、庁内横断的な検討組織を設置し、事業間の調整・情報共有などを通じて事業の優先順位の整理や関係課と連携した事業計画の立案・予算化など、事業の全体最適化を推進。

＜具体事業＞

＊水辺を活かした空間の魅力づくりを推進するため、水上公園を再整備
(H28.7 供用開始)

＊はかた駅前通りの魅力づくりや回遊性向上に向けた道路整備 (H28.7 工事着工)

＊西中洲の魅力づくりに向けた石畳による道路整備と景観誘導についてH28n検討着手し、一部区間についてH29nに工事着手予定。

＊国が整備する国道202号春吉橋架替の迂回路橋を活用した賑わい空間の創出
(現在、国において迂回路橋整備中)

【課題】 ・ 都心部の回遊性向上に向けた事業の実施にあたっては、主要プロジェクトの開業・供用時期や民間ビルの開発機運などを捉えた戦略的な推進が必要。

【今後】 ・ 引き続き、都心回遊に関する関係者間の事業の調整・情報共有とともに、周辺のまちづくりの動向等を踏まえ、事業の具体化に向けた検討を着実に推進する。

観光バスの受入環境の改善

【進捗】 ・ 観光地周辺における活用可能性のある公有地等の調査・検討を行い、実施。
・ クルーズ船観光バスによる交通混雑への対策については、庁内横断的な対策会議等において、対策を検討し、実施。

＜具体事業＞

＊今津地区元寇防塁の観光バスへも対応した駐車場の確保

＊福岡タワー周辺における観光バス駐車場の整備

【課題】 ・ 観光地など訪問先周辺における恒久的な観光バス駐車場等の整備においては、十分な広さを有した適地の確保が困難。

【今後】 ・ 観光バス駐車場等の確保に向けた活用可能性のある公有地等の調査・検討を行うとともに、クルーズ船観光バスによる交通混雑については、博多港クルーズ船受入関係者協議会や県警などとも連携し、対策に取り組む。

4 重点事業

(1) まち歩き観光振興事業・史跡めぐりの充実強化①（観光案内ボランティアの充実強化）

目的	福岡市を訪れる多くの訪問客に、ガイドの巧みな話術とおもてなしで、快適にまちをめぐり、魅力に触れて満足していただくことで、福岡市のファンを増やす。	H28事業費	6,656	千円	
		H29事業費	5,993	千円	
対象	福岡市民・福岡市を訪れる観光客	担当	経済観光文化局観光コンベンション部観光産業課		
実施内容	○観光客等のガイド派遣依頼にともなう観光案内活動。				
	○市役所ロビーに2名、町家ふるさと館に1名が毎日（12/28～1/3を除く）常駐し、無料の定時ツアーや周辺の観光案内を実施。				
	○福岡城むかし探訪館に週4日（月水金日）常駐し、周辺の観光案内を実施。希望があれば、福岡城バーチャル時空散歩の案内。				
	○企画募集型のまち歩きツアーを定期的実施。新コースを13コース開発。				
	○博多情緒めぐり期間中のまち歩きの実施。				
	○本市で開催される祭り、イベント等の参加者に対する案内。				
	○観光案内ボランティアの新規募集を実施。外国語に対応できる人材も併せて募集。				
	○日本経済大学と連携し、留学生モニタリングツアーを実施。				
○通訳ボランティアであるウェルカムサポーターと連携し、外国人向け観光案内を実施。					
	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	観光案内ボランティアの案内人数	11,000	9,425	85.7%	
成果の指標	—	—	—	—	
補足					

(2) まち歩き観光振興事業・史跡めぐりの充実強化②（歴史・文化遺産まち歩き）

目的	・文化財の存在を知ってもらい、保護意識を高めてもらうきっかけとする。 ・福岡の歴史と文化財を他の観光資源と結びつけて、より幅の広い観光をしてもらう。		H28事業費	1,734	千円	
			H29事業費	1,520	千円	
対象	これまで文化財に関心の薄かった市民。市外からの観光客	担当	経済観光文化局文化財部文化財保護課			
実施内容	・H24nに制作したスマートフォンアプリ「福岡歴史なび」に、まち歩きルート、1ルート分を追加した。 「最古の王墓」ルートを追加。 現在計10ルートを公開運用中。					
	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	製作するガイドシステムのコース数(単位ルート)	1	1	100%	c	
成果の指標	アプリのダウンロード数 (運用開始はH25nから)	40,000	25,677	64%		
補足						

(3) 快適で高質な都心回遊空間の創出事業

第1次計画で同質な都心回遊空間の創出事業					
目的	・歩いて楽しく、魅力ある回遊空間の形成により、働くひと、住む人、訪れる人の心に残る美しいまちとなり、都心部の歩行者が増加する。		H28事業費	141,033	千円
			H29事業費	1,000	千円
対象	都心部において働く人、住む人、訪れる人など、あらゆる人	担当	住宅都市局都心創生部都心創生課		
実施内容	○都心回遊に関する庁内横断的な検討組織を設置し、事業間の調整・情報共有などを通じて、事業の全体最適化を図っている。 （事業の優先順位の整理や、関係課と連携した事業計画の立案・予算化）				
	○天神ビッグバンの奥座敷（西中洲）～情緒ある路地空間の創出～ 西中洲地区の魅力づくりに向けた景観誘導				
	○都心における街路樹などの再整備 博多～天神を繋ぐ通りの魅力づくり（はかた駅前通りの再整備 等）				
	○水辺の公園再整備（水上公園、清流公園）				
	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	エリマネ組織等と当課とのまちづくり検討に係る協議回数	50	64	128.0%	a
	エリマネ組織等による公開空地等でのイベント開催件数	15	18	120.0%	
成果の指標	都心部の1日あたりの歩行者交通量（万人）	11.0	13.2	120%	
補足	－				

(4) 快適で高質な都心回遊空間の創出事業

目的	国際競争力の高い都心部となることで、多くの国内外からの来訪者が交流し、福岡都市圏及び九州の活力を牽引している。			H28事業費	1,056,920	千円
				H29事業費	784,900	千円
対象	都心部の道路空間、及び国内外からの来訪者	担当	道路下水道局計画部道路計画課			
実施内容	○国道202号春吉橋架替の迂回路橋を活用した賑わい空間の創出に係る橋梁整備負担金等					
	○博多～天神を繋ぐ通りの魅力づくり（はかた駅前通りの再整備）					
	○天神ビッグバンの奥座敷（西中洲）～情緒ある路地空間の創出～ 西中洲地区の魅力づくりに向けた景観誘導					
	○天神地下街延伸時に整備した仮設車路を地下駐輪場及び地下通路として整備					
	指標内容		H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	—		—	—	—	a
成果の指標	都心部を回遊する歩行者交通量（人）		35,000	38,031	109%	
補足	—					

(5) インバウンド観光客受入環境向上事業

目的	外国人観光客が急増し、大型MICEの開催が今後、予定されている中、マナーや宿泊施設不足などの課題に対応するとともに、市全体でインバウンド需要を取り込むための環境整備に取り組む。		H28事業費	41,787 千円		
			H29事業費	0 千円		
対象	外国人観光客	担当	経済観光文化局観光コンベンション部観光産業課 他6課			
実施内容	【地方創生関連交付金事業】地方創生加速化交付金					
	○歴史・文化・自然など地域の観光資源を活用した体験プログラムなどの開発					
	・ものづくり体験マニュアル（7種）や体験マップの作成（5言語）及び博多織、博多人形などのものづくり体験事業の実施（延べ9件）					
	・ミュージアム施設の共通割引券を作成し、期間を限定した導入実験を実施					
	・自然資源などを生かした体験型旅行商品の造成促進とトップランナー事業者育成（30件開発）					
	○はかた伝統工芸館、アジア美術館、博物館での展示作品の多言語化および音声ガイドの作成					
	○飲食店の多言語対応推進のためのセミナーの開催（32事業者参加）					
	○観光案内所の開所時間の延長（毎日8.5時間→毎日9.5時間）					
	○マナー・日本文化の理解促進のためのマナー映像の制作					
	○宿泊施設不足に関する調査・検討 など					
	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況	
指標	外国人入国者数	—	257万人	—	a	
指標	農漁業体験プログラム数	2	2	100%		
指標	ものづくり体験実施件数	8	9	113%		
補足	—					

目標5 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている

施策5-4 交流がビジネスを生むMICE拠点の形成			
施策主管局	経済観光文化局	関連局	総務企画局, 住宅都市局, 港湾空港局
施策の課題 MICEの推進にあたっては、世界の都市との競争が激しさを増しており、産学官民が一体となった誘致・支援の取組みが必要となっています。また、市内のコンベンション施設は高い稼働率が続き、コンベンション施設の機能強化や多様なホテルの立地など、MICEを支えるインフラの充実が求められています。			
施策の方向性 福岡都市圏内の大学、会議場、ホテルなどと連携しながら、会議、展示、飲食、宿泊などのMICEを支える多様な要素が一体として機能するよう、MICEの拠点機能を高めます。 また、ウォーターフロントに集積するコンベンション機能を強化するため、新たな展示場の整備や天神・博多駅との回遊性向上を進めます。 さらに、助成金やおもてなし事業による開催支援や地元企業とのマッチング支援などにより、リピーターの確保や新たなビジネスの創出など、地元経済への波及効果を高めます。			

《施策事業の体系》 ★：新規事業、◆：区事業 / 太字：重点事業、細字：主要事業、[]：その他の取組み

●MICE機能の強化

- 国内を代表するMICE拠点の形成
- 都心3拠点を結ぶ交通アクセス強化の検討<再掲4-5>
- 産学官民連携による国際競争力強化事業<再掲6-1>
- 中央ふ頭整備事業（にぎわいづくり、回遊性向上、景観整備等）<再掲8-1>

●MICE誘致の推進

- MICE誘致推進事業
- 新しいMICEワンストップ体制の運営
- ライオンズクラブ国際大会準備事業（終了）
- 国家戦略特区MICE推進事業
- MICEによる福岡版クールジャパンの推進（終了）

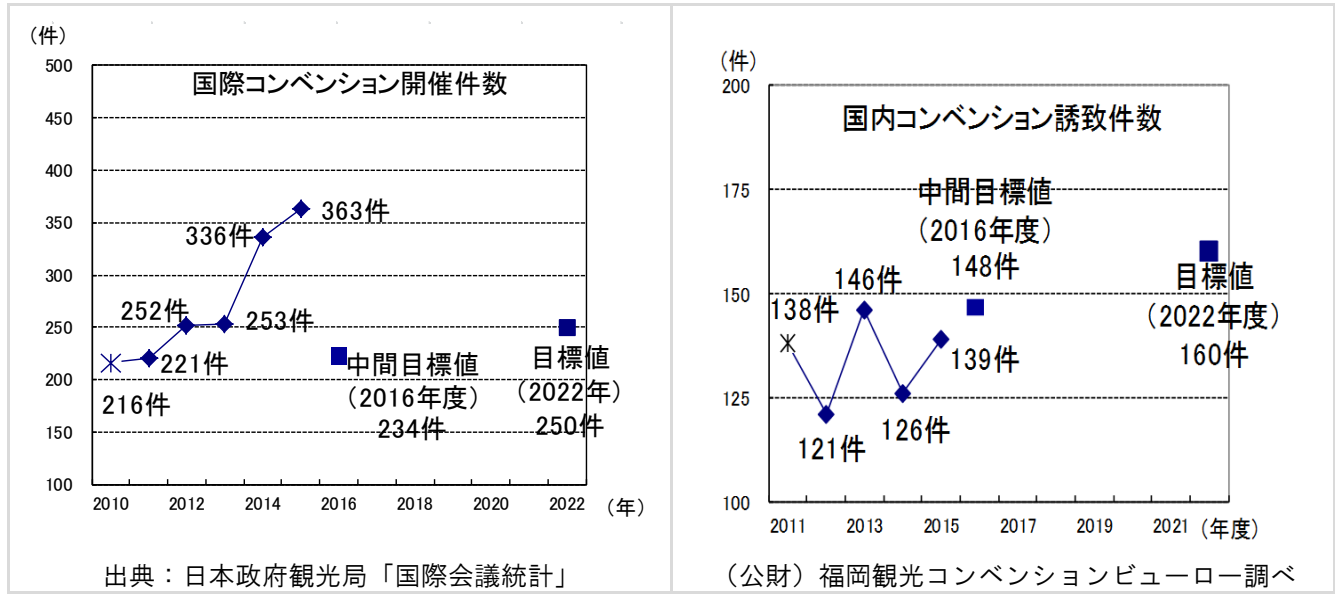
1 施策の評価

○：概ね順調	・第2期展示場の事業者公募に向けた手続きや、ライオンズクラブ国際大会の受入環境整備などの取組みは、MICE機能の強化やMICE誘致の推進などのMICE拠点の形成に向けて、順調に進んでいる。 ・成果指標のうち、「国際コンベンション開催件数」は2012年に目標達成し、その後も増加を続けている。また、「国内コンベンション誘致件数」については初期値と同水準であり、MICEの専門組織である「Meeting Place Fukuoka」と連携した戦略的な誘致活動や開催支援を行っている。
--------	---

2 施策の関連指標の動向と分析

《成果指標》

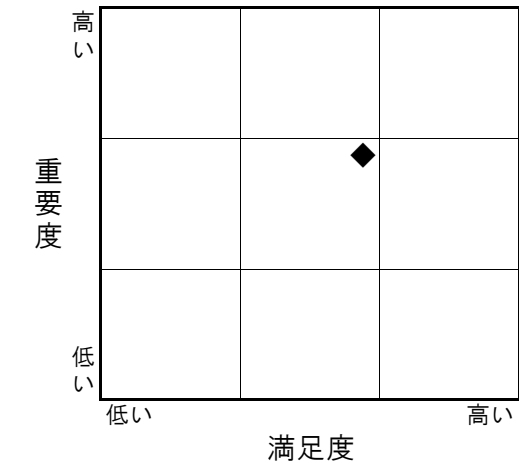
指標	初期値	現状値	中間目標値 (2016年度)	目標値 (2022年度)	達成状況
国際コンベンション開催件数	216 件 (2010年)	363 件 (2015年)	234 件	250 件	(A)
国内コンベンション誘致件数	138 件 (2011年度)	139 件 (2015年度)	148 件	160 件	(B)



《市民満足度調査（2015年度調査）》
国際会議や展示会・見本市などの誘致、
コンベンション機能の強化

満足度		重要度	
満足	23.9%	重要	41.1%
不満足	9.3%	非重要	11.6%
どちらでもない	63.3%	どちらでもない	43.4%

満足度と重要度の分布(平均評定値)【9区分評価】



指標等の分析
【成果指標】 - 国際会議開催件数は363件（H27）で、目標値を大きく上回っている。（7年連続で国内第2位） - 国内会議の誘致件数は139 件（H27n）となり、前年度より増加した。

3 取組みの進捗状況・課題と今後の方向性

●MICE機能の強化

ウォーターフロント地区内でのコンベンション機能の強化

【進捗】・第2期展示場及び立体駐車場については、PFI方式による事業実施にあたり、実施方針や要求水準書(案)等の策定・公表を行うなど、事業者公募に向けた手続きを進めた。

・また、新ホール等MICE施設の施設計画や事業手法等の検討のほか、施設の運営については、幅広く民間ノウハウや活力を生かせる効果的な運営手法について検討を行った。

【課題】・ウォーターフロント地区内での「オール・イン・ワン(※)」の早期実現にあたり、ホテル・賑わい施設等の誘致のほか、交通アクセス強化等も含めた魅力的で実現性の高い計画づくりが必要。

※展示場、会議室、宿泊、宴会場などのMICE関連施設や飲食店、休憩所等が徒歩圏内に一体的・機能的に配置されること。

【今後】・第2期展示場等については事業者公募の手続きを進めるとともに、必要なインフラ等の工事を行うなど、平成33年開館に向けた取組みを進める。

・また、新ホール等MICE施設の整備や、ホテル等の誘致に向けた検討のほか、既存施設と新設施設の一体的な運営の実現に向けた事業手法の検討を行う。

都心循環BRTの形成に向けた検討

【進捗】・都心循環BRTの形成に向けた連節バスによる試行運行の実施(H28.8～)、「専用走行空間のあり方」や「バス路線の再編・効率化」の方向性をとりまとめた。

【課題】・市民や来街者などを対象として試行運行に併せて実施したアンケート調査によると、連節バスの利用に必要な事項として、「運行頻度の向上」や「時間通りの運行」を求める意見が多いことから、西鉄や交通管理者と連携しながら、運行頻度や定時性・速達性の向上に資する取組みが必要。

・郊外部のサービス水準を極力低下させずに都心部の交通負荷を低減することを基本としたバス路線の再編・効率化に取り組むことが必要。

【今後】・運行頻度や定時性・速達性の向上に資する取組みについては、市民や来街者の声を踏まえて、次のステップとして現在の約110分ピッチから概ね20分ピッチに運行頻度を上げるとともに、時間帯専用・優先レーンの拡充・強化や路面標示による走行位置の明示化等の検討に取り組む。

・バス路線の再編・効率化については、引き続き西鉄において、乗り継ぎ施策と併せたバス路線の幹線・フィーダ化等や連節バス増便に併せた再編・効率化に取り組む。

●MICE誘致の推進

戦略的なMICE誘致推進

- 【進捗】・MICE主催者へのコンベンション開催助成金の交付を行うとともに、助成金制度の改正を行い、上限額の大幅な引き上げや一部前払い制度の導入など、主催者支援を強化。
- ・国際会議協会(ICC)のデータベースを活用したリサーチ・マーケティングの実施。
- ・国際ミーティング・エキスポ(IME)や国際MICE見本市(IMEX)など、国内外の国際会議等の商談会・見本市に出展するとともに、九州各地の自治体、コンベンション協会や東京と連携した招聘事業(視察ツアー)を行うなど、営業活動を強化。
- ・学術や産業分野で影響力を持つ人物を福岡市MICEアンバサダーに委嘱し、キーパーソンとのネットワーク強化ならびに新規MICEの誘致を促進。
- ・市、(公財)福岡観光コンベンションビューロー内に設置した「Meeting Place Fukuoka」、(一財)福岡コンベンションセンターの三者による誘致ターゲットの設定や進捗状況の確認、共同営業などの連携を強化。
- ・過去最大規模の国際コンベンションとなった「第99回ライオンズクラブ国際大会」では、産官学が一体となり、おもてなしや受け入れ環境整備を行い、参加者から高評価を得た。
- 【課題】・国際会議の件数は順調に増加しているが、比較的小規模な会議が多い。
- 【今後】・福岡市の産業特性や成長分野を考慮するなど、戦略的なMICEの誘致に取り組む。
- ・ライオンズクラブ国際大会で得た、経験やノウハウを活かして、引き続き受入環境の充実を図るとともに、福岡でのMICE開催の魅力向上に向けユニークベニューの開発を行う。

MICEによるビジネス振興

- 【進捗】・海外商工会議所等と連携したビジネスフォーラムの開催(参加者数177人)や本市の成長分野であるIT、IoT、スタートアップ関連の展示商談会などのビジネスイベント誘致、会議主催者向けにサイトビジットツアー(地場企業・生産地視察ツアー、5日間、20施設、参加者数延べ163人)を実施。
- 【課題】・MICEをビジネス振興に繋げるため、MICE参加者と地場企業等とのマッチング機会の創出を図る必要がある。
- 【今後】・MICE参加者と地場企業等とのマッチングに向けて、会議主催者等のニーズを把握するとともに、アフターコンベンションとしてのサイトビジットツアーなどの働きかけを行う。そのうえで、関連団体との連携を密にし、地場企業等とのマッチングを進めることで、福岡でのMICE開催の魅力を高める。

4 重点事業

(1)国内を代表するMICE拠点の形成

目的	コンベンション施設が集積するウォーターフロントのコンベンションゾーンにおいて、新たな展示場を整備するとともに、ホテルの誘致（宿泊機能やバンケット機能）、飲食店などの賑わい創出により、MICE機能を強化する。		H28事業費	149,085	千円	
			H29事業費	285,722	千円	
対象	本市コンベンションゾーンにおけるコンベンション施設	担当	経済観光文化局観光コンベンション部 MICE施設整備担当			
実施内容	・第2期展示場及び立体駐車場については、PFI方式による事業実施にあたり、実施方針や要求水準書(案)等の策定・公表を行うなど、事業者公募に向けた手続きを進めた。 ・新ホール等MICE施設の施設計画や事業手法等の検討のほか、施設の運営については、幅広く民間ノウハウや活力を生かせる効果的な運営手法について検討を行った。					
		指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	—		—	—	—	—
成果の指標	—		—	—	—	
補足	第2期展示場及び立体駐車場については、PFI法に基づき、福岡市第2期展示場等整備事業を特定事業として選定し、H29.3に議会報告を行った。					

(2)MICE誘致推進事業

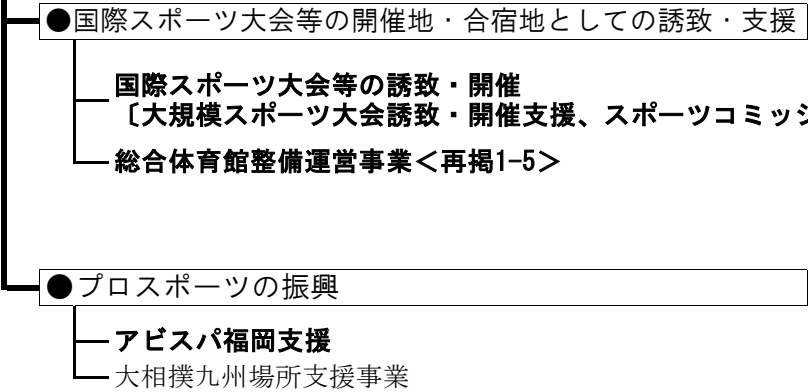
目的	MICE主催者が、福岡市の魅力を知り、福岡を開催地として選択する状態。 また、福岡で開催されたMICEの主催者・参加者が福岡の魅力に触れ、個人旅行で再来福したり、広く福岡の魅力を発信する状態。		H28事業費	94,152 千円		
			H29事業費	82,481 千円		
対象	MICEの主催者・参加者	担当	経済観光文化局観光コンベンション部MICE推進課			
実施内容	・海外の国際会議等の展示会・見本市への出展。 ・国際会議協会（ICCA）のデータベースを活用した戦略的なマーケティング活動。 ・市と（公財）福岡観光コンベンションビューロー、（一財）福岡コンベンションセンターの三者で共同の誘致活動を実施。 ・実務者レベルの会議体を設け、誘致ターゲットのリスト化や月次レベルの誘致状況等について情報共有を実施。 ・MICE主催者への各種支援（コンベンション開催助成、歓迎バナーの掲出、コンベンションサポートなど）。					
	指標内容		H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	—		—	—	—	—
成果の指標	国際コンベンション開催件数		280	—	—	
補足	—					

(3)MICEによる福岡版クールジャパンの推進（終了）

目的	MICE参加者の行動把握を行うとともに、参加者等の利便性向上と福岡の魅力発信を行うスマートフォンアプリを制作して、MICEの誘致促進を図る。 ファッションウィーク福岡のPR効果・ブランド力の向上及びBtoB機会の拡充を行い、地場企業の販路拡大や集客による消費増大を図る。		H28事業費	0 千円
			H29事業費	0 千円
対象	MICEの主催者・参加者 市内ファッション関連企業	担当	経済観光文化局観光コンベンション部MICE推進課、経済観光文化局国際経済・コンテンツ部コンテンツ振興課	
実施内容	【地方創生関連交付金事業】地方創生先行型（上乗せ交付分） H27終了 当該交付金事業としてはH27で終了した。 制作したスマートフォンアプリは、MICE主催者・参加者へダウンロードを呼びかけており、福岡滞在時の利便性向上のために活用されている。			
補足	ー			

施策5-5 国際スポーツ大会の誘致やプロスポーツの振興			
施策主管局	市民局	関連局	経済観光文化局
施策の課題 福岡市は、福岡国際マラソンをはじめとした国際スポーツ大会や大相撲九州場所が毎年開催されるとともに、野球、サッカー、バスケットボールなどのプロスポーツチームも有しています。また、福岡市はユニバーシアード競技大会、世界水泳選手権大会など、大規模な国際スポーツ大会を開催した実績があります。 人々に夢と感動を与え、まちに対する誇りと活力をもたらすスポーツの魅力を、都市の魅力としてさらに活用し、推進していく必要があります。			
施策の方向性 国際スポーツ大会や全国レベルの大会の開催地、合宿地としての誘致・支援を行うとともに、地元プロスポーツの振興を図ることなどにより、市民が一流のスポーツに触れ、交流できる機会を提供し、市民スポーツの振興を推進します。			

《施策事業の体系》 ★：新規事業、◆：区事業 / **太字：重点事業**，細字：主要事業，[]：その他の取組み



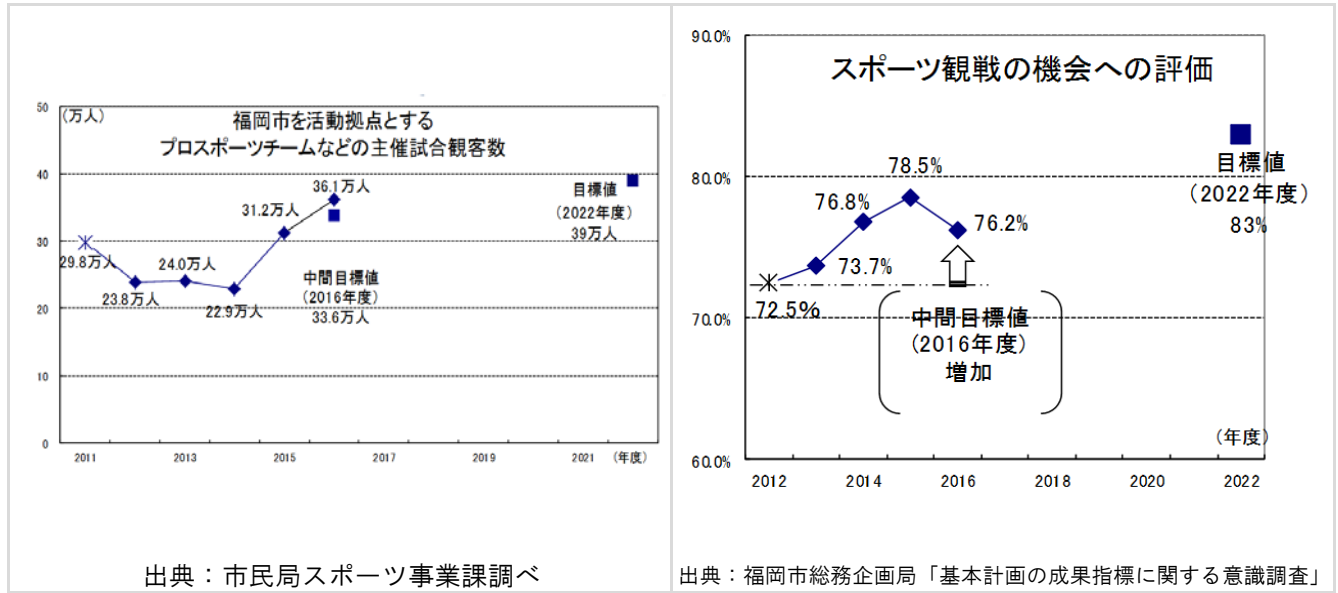
1 施策の評価

○：概ね順調	・世界陸上選手権大会（北京）の合宿地，2019年のラグビーワールドカップの開催地，東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿地，2021年の世界水泳選手権の開催都市となるなど「国際スポーツ大会等の開催地・合宿地としての誘致・支援」の取組みや，アビスパ福岡と協力したサッカー教室の実施などプロスポーツの振興の取組みは順調に進んでいる。 ・成果指標は中間目標を達成するなど，順調に推移している。
--------	---

2 施策の関連指標の動向と分析

《成果指標》

指標	初期値	現状値	中間目標値 (2016年度)	目標値 (2022年度)	達成状況
福岡市を活動拠点とするプロスポーツチームなどの主催試合観客数（福岡ソフトバンクホークスを除く）	29.8万人 (2011年度)	36.1万人 (2016年度)	33.6万人	39万人	A
スポーツ観戦の機会への評価（福岡市はスポーツ観戦の機会に恵まれた都市だと思う市民の割合）	72.5% (2012年度)	76.2% (2016年度)	増加	83%	A

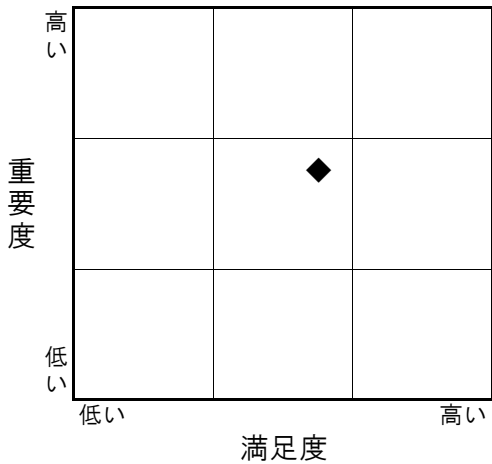


《市民満足度調査（2015年度調査）》

国際スポーツ大会の誘致やプロスポーツの振興

満足度と重要度の分布(平均評定値)【9区分評価】

満足度		重要度	
満足	24.9%	重要	38.2%
不満足	10.9%	非重要	13.4%
どちらでもない	60.8%	どちらでもない	44.6%



指標等の分析
【成果指標】 ・主催試合観客数の増加の要因は、アビスパ福岡がJ1に昇格したことや、大相撲九州場所の人気回復、ラグビートップリーグの開催試合日数が増えたことなどであるが、一方でライジング福岡及び福岡J・アンクラスについては、成績低迷により、観客数が減少した。 ・スポーツ観戦の機会への評価は、おおむね順調に伸びている。

3 取組みの進捗状況・課題と今後の方向性

●国際スポーツ大会等の開催地・合宿地としての誘致・支援

国際スポーツ大会等の開催地としての取組み

- 【進捗】 ・ H31の日本陸上競技選手権大会の開催が決定した (H27. 12)。
 ・ H33の世界水泳選手権の開催都市として決定した (H28. 1)。
 ・ ルイ・ヴィトン・アメリカズカップ・ワールドシリーズ福岡大会を招致・開催した (H28. 11)。
- 【課題】 ・ 新規国際スポーツ大会等の開催に関する情報の収集が困難。
 ・ 体育館や屋外競技場などの施設について、老朽化や、大規模な国際スポーツ大会の開催基準に満たないものがある。
 ・ 市民に夢や希望を与え、青少年の健全育成や市民スポーツの振興に寄与するため、トップレベルの競技を観る機会だけでなく実際にスポーツを体験する機会の提供も必要。
- 【今後】 ・ ラグビーワールドカップ2019については、会場となるレベルファイブスタジアムの改修を進めるとともに、大会開催に向けた準備や気運醸成を実施。
 ・ 2021年世界水泳選手権については、準備委員会を立ち上げ、大会開催に向けた準備や気運醸成を実施。
 ・ 新規の国際スポーツ大会や全国レベルのスポーツ大会について、各種競技団体やパートナー都市協定を締結したJOCと連携して招致を検討。
 ・ 市民が高いレベルのスポーツに触れ、自らもスポーツを体験できる機会を創出するため、国際スポーツ大会に参加するトップアスリートとの交流会等の企画を推進。

国際スポーツ大会等の合宿地としての取組み

- 【進捗】 ・ H27. 8に中国北京で行われた世界陸上選手権大会の事前合宿地として、イギリス陸上競技連盟を受け入れた (H27. 8)。
 ・ H32の東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿地として、ノルウェーオリンピック委員会の視察を受け入れた (H28. 3視察)。
- 【課題】 ・ 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会に関し、どのように気運醸成を図るかが課題。
 ・ 各種競技の事前合宿については、それぞれの競技団体、スポンサー企業等との恒常的な関係構築と情報収集が重要であるが、自治体単独ではそうした取り組みが困難。
- 【今後】 ・ 事前合宿を成功させ、福岡市の評価を高めることが、新たな事前合宿の招致に繋がるため、地元企業・団体等と連携し、受け入れ準備を丁寧に進める。
 また、スポーツ庁や、JOCその他の団体等と連携し、各種競技団体やスポーツ大会に関する情報収集に努める。

総合体育館整備の推進

- 【進捗】 ・ 総合体育館の整備については、PFI 事業契約に基づき、設計を行い、H29. 2 から建設工事に着手。
- 【課題】 ・ 特になし
- 【今後】 ・ H30n秋の開館に向けて事業を推進していく。

●プロスポーツの振興

福岡を拠点としたプロスポーツチームに触れる機会づくり

- 【進捗】 ・アビスパ福岡と協力して、子どもから高齢者までを対象としたサッカー教室等を実施。また、引き続きアビスパ福岡の支援のため、市民を対象とした試合観戦招待やホームゲーム開催時におけるスポーツ大会等の広告看板を掲出。
・プロバスケットボールは平成28年9月よりBリーグが開幕し、ライジングゼファークオカがB3リーグより参戦しており、福岡市を拠点とした地域に根付いたチーム作りをサポートしていく。
・ソフトバンクホークスの支援については、企画調整課が行う包括連携事業と連携した取り組みを行うこととしている。
- 【課題】 ・福岡ソフトバンクホークス、アビスパ福岡に加え、福岡J・アンクラス、ライジングゼファークオカなど多彩なプロスポーツチーム等が活動しているほか、福岡市のスポーツ観戦環境は恵まれているが、歴史が浅く知名度が低いチーム等はその活動の周知が不十分。
 *ホークスを除くプロスポーツ試合観客数 H28n : 360,587人
・アビスパ福岡については、昨シーズンJ1に昇格したものの、1年でJ2へ降格となり、大幅に増加した観客数やスポンサーの動向をはじめ、経営安定を見守る必要がある。
- 【今後】 ・各プロスポーツへの関心向上と観客数増加のため、継続した広報活動や、市民とのスポーツ交流活動を支援。
・アビスパ福岡については、経営状況を把握しながら、継続して支援。

大相撲九州場所等に触れる機会づくり

- 【進捗】 ・大相撲九州場所の支援として、街路灯バナーの掲出、CM映像放映等のPRを実施。
- 【課題】 ・観戦招待事業については、市内の小中特別支援学校へ広く募集の案内を行ってはいるものの、応募上限を設けており、児童生徒の少ない小規模な学校などに応募が偏っている現実がある。
- 【今後】 ・観戦招待事業について、今後、より多くの児童生徒や市民が観戦機会を得られるよう、参加者や市民のニーズを踏まえて、日本相撲協会や福岡コンベンションセンター等関係団体と連携して検討を進めていく。

4 重点事業

(1)国際スポーツ大会等の誘致・開催①（スポーツコミッション事業）

目的	国際スポーツ大会、大規模スポーツ大会等の招致・開催支援や本市施設を活用したスポーツ合宿の招致・支援を行うことにより、市民が一流のスポーツに触れ、交流できる機会が増えるなど、市民スポーツの振興が推進されるとともに、本市の知名度向上や参加者・観光客増加による地域活性化を図る。		H28事業費	20,176 千円		
			H29事業費	2,300 千円		
対象	・国内外のスポーツ関係団体等 ・市民		担当	市民局スポーツ推進部スポーツ事業課		
実施内容	1 東京オリパラ関係 ノルウェーオリンピックチームの事前合宿受け入れ決定 期 間：平成32年7月～8月 人 数：選手及びコーチ数十名					
	2 ルイ・ヴィトン・アメリカズカップ・ワールドシリーズ福岡大会（アジア初開催） 日 程：平成28年11月18日（金）～20日（日） 場 所：福岡市中央区地行浜沖 人 数：約14,000人（2日間合計）※18日は練習レース開催日のため、非公開					
	3 V・プレミアリーグ女子 ファイナル6 福岡大会 国内最高峰のバレーボールリーグに所属する8チーム中、上位6チームが頂点を目指すファイナルステージの第1弾。 日 程：平成29年2月18日（土）、19日（日） 福岡市民体育館 人 数：約8,000人（2日間合計）					
	指標内容		H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	—		—	—	—	—
成果の指標	スポーツ観戦の機会への評価		—	—	—	
補足	—					

(2)国際スポーツ大会等の誘致・開催②（ラグビーワールドカップ2019開催等準備）

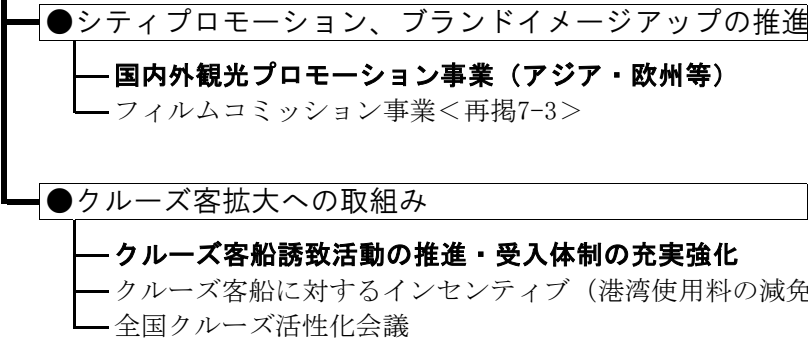
目的	ラグビーワールドカップ2019の開催及びキャンプ招致を行うことで、市民が一流のスポーツに触れ、交流できる機会が増えるなど、市民スポーツの振興が推進されるとともに、多くの観光客が福岡を訪れる。	H28事業費		97,372 千円		
		H29事業費		522,763 千円		
対象	ラグビーワールドカップ2019	担当	市民局スポーツ推進部スポーツ事業課			
実施内容	会場となるレベルファイブスタジアムの改修を進めるとともに、大会開催に向けた準備や気運醸成を実施した。また、キャンプ招致については、事前キャンプ招致に集中することに決定した。					
	(1) 開催準備 ○ 組織委員会や開催都市間との協議・調整等 ○ 施設改修計画の検討・策定 (2) 気運醸成 ○ 県、商工会議所、県ラグビー協会との協議・調整等 ○ 各種イベントの開催（スポーツフェスタ等） ○ 各種イベントにおけるブース等の出展等（ガソクフェスタ、ねんりんピック等） ○ 九州開催都市（熊本・大分）と連携したトップリーグでのPR活動 (3) キャンプ招致 ○ 情報収集、人脈構築等					
	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	各種イベントの開催及びPR活動等	12	17	142%	a	
成果の指標	—	—	—	—		
補足	—					

(3)アビスパ福岡支援

目的	・市民が、試合観戦やアビスパ福岡のホームタウン活動を通して、一流のスポーツに触れ、交流できる機会が増える。 ・多くの市民や企業、団体が、アビスパ福岡を誇りに思い、積極的に支援することで、アビスパ福岡の経営基盤が安定し、自立が図られる。			H28事業費	82,760	千円	
				H29事業費	85,783	千円	
対象	・市民 ・アビスパ福岡		担当	市民局スポーツ推進部スポーツ事業課			
実施内容	①観戦招待事業（小中高生とその保護者をホームゲームに招待） ②少年少女サッカー教室（幼児、小中学生の団体を対象としたコーチによるサッカー指導） ③親子サッカー教室（小学生とその保護者を対象とした選手・コーチによる教室） ④心の教育プロジェクト（市内小学校での選手・コーチによる特別授業） ⑤アビスパ健康教室（およそ60歳以上を対象とした運動啓発教室） ⑥スポーツ大会等広告看板掲出（ホームゲーム時に掲出） ⑦ブラインドサッカー教室（小学生以上を対象としたコーチおよびブラインドサッカー選手による体験教室） ⑧乳幼児ふれあい教室（乳幼児とその保護者を対象としたコーチによる教室）						
	指標内容			H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	プロ選手等との市民の交流機会(回数)			152	137	90.1%	a
成果の指標	スポーツ観戦の機会への評価			—	—	—	
	プロスポーツチームなどの主催試合観客数(千人)			312	361	115.7%	
補足	—						

施策5-6 国内外への戦略的なプロモーションの推進			
施策主管局	経済観光文化局	関連局	港湾空港局
施策の課題			
博多港は2010 年（平成22 年）には外航クルーズ客船寄港回数が日本一となるなど、国内のクルーズ拠点港として存在感を高めており、また、中国や韓国などからの来街者が大幅に増大していますが、今後、観光産業における都市間競争は、さらに激しさを増すと見られており、成長著しいアジア地域を中心とした諸外国からいかに観光客を取り込んでいくかが重要な課題となっています。			
施策の方向性			
都市圏や九州の各都市、さらには釜山広域市と連携し、国内やアジアをはじめとする海外の有望市場に対し、メディア、インターネットなどを活用した効果的なプロモーションにより、クルーズ客を含め、国内外からの誘客に積極的に取り組み、多くの人をひきつけます。			

《施策事業の体系》 ★：新規事業、◆：区事業 / **太字：重点事業**，細字：主要事業，[]：その他の取り組み



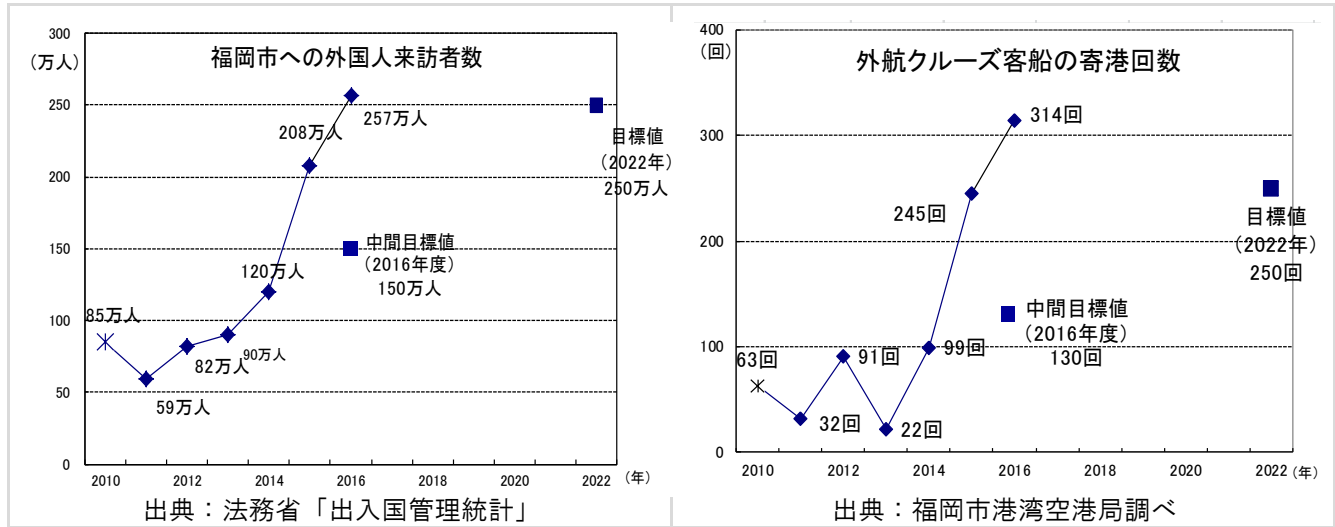
1 施策の評価

◎：順調	・国内外観光プロモーション事業，クルーズ客船誘致活動の推進・受入体制の充実強化などの取り組みは，順調に進んでいる。 ・成果指標はいずれも中間目標を達成するなど，順調に推移している。
------	--

2 施策の関連指標の動向と分析

《成果指標》

指標	初期値	現状値	中間目標値 (2016年度)	目標値 (2022年度)	達成状況
福岡市への外国人来訪者数	85 万人 (2010年)	257万人 (2016年)	150万人	250 万人	A
外航クルーズ客船の寄港回数	63回 (2010年)	314回 (2016年)	130 回	250 回	A

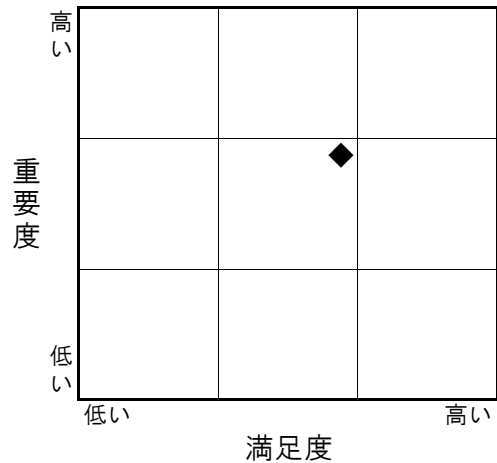


《市民満足度調査（2015年度調査）》

観光プロモーション活動
（宣伝、広報活動）の推進

満足度		重要度	
満足	24.4%	重要	41.6%
不満足	12.0%	非重要	12.5%
どちらでもない	60.1%	どちらでもない	41.6%

満足度と重要度の分布(平均評定値)【9区分評価】



指標等の分析

・福岡市への外国人来訪者数は、最も入国者が多い韓国をはじめ、台湾、香港など多くの国・地域からの入国が増加したことにより、H28は257万人と過去最高を記録し、目標値を上回った。

・外航クルーズ客船の寄港回数は、東アジアクルーズ市場の拡大を背景に増加を続けており、H28は314回と3年連続で過去最高かつ日本一になり、目標値を上回った。

3 取組みの進捗状況・課題と今後の方向性

●シティプロモーション、ブランドイメージアップの推進

市場ニーズ分析等による効果的なシティプロモーションの推進

- 【進捗】・国内では3大都市圏、海外では直行便の就航するアジアなどの有望市場を主なターゲットとして、国際観光展等への出展や観光説明会の開催など、本市の事業に加え観光関係協議会等において広域連携によるプロモーション活動を実施。
 ＊観光展・説明会等：15件
 ・福岡の認知度向上や旅行商品の造成促進を図るため、海外メディア等による情報発信（12件）や旅行会社等の招請（7件）を実施。
- 【課題】・船舶観光上陸許可によるクルーズ船での入国者を除き、外国人入国者の8割以上を韓国・台湾などの東アジアが占めており、直行便が就航している東南アジアなど、より多様な国・地域からの誘客を図る必要がある。
 ・観光地としての福岡市の知名度を向上させるため、伝統・文化、食、コンテンツ、ファッション、ショッピングなどの素材の中からターゲットの地域の嗜好にあわせてどのような内容・手法でプロモーションを行うかについて、継続的な市場分析・研究が必要。
- 【今後】・韓国・中国に加え、台湾・香港や、旅行需要が大きく伸びている東南アジアなどに対して、引き続きプロモーション活動を実施。また、日本政府観光局等、関係団体からの情報収集に加え、福岡観光コンベンションビューローや九州の各自治体等で構成する各種協議会とも連携して、ターゲットとなる市場のニーズを捉え、効果的なプロモーションを計画的に実施。

フィルムコミッションによるシティプロモーション

- 【進捗】・福岡フィルムコミッションについて、海外作品11件の撮影支援を行った。
 ・また、アジアフォーカス・福岡国際映画祭のゲストに対してロケ候補地を案内しプロモーションを行ったほか、釜山などの国際映画祭に合わせて開催される海外の見本市等において撮影誘致活動を実施。
- 【課題】・規制などの面から日本の撮影環境は海外に比べ優位とは言えず、独自の伝統文化、食等、都市の魅力によりロケ地としての関心を高めるとともに、海外からの撮影に対応できる人材を育成するなど、受入れ体制の充実を図ることが重要。
 ・福岡の認知度を高めるため、海外からの誘致作品や海外へ展開された地元ロケ作品情報を企業等と連携して発信する機会を増やすことが重要。
- 【今後】・福岡フィルムコミッションにおいては、アジアフォーカス・福岡国際映画祭を活用した撮影誘致活動やインターネットなどを活用した効果的なプロモーションを実施。

●クルーズ客拡大への取組み

多様なクルーズの誘致

- 【進捗】・国内外の船社・代理店訪問や海外コンベンションへの参加を通じた誘致活動，見学会・セミナー，出前講座等を通じた博多港発着クルーズ振興を実施。
・外国船による博多港発着定点クルーズが，H28に10回実施され，H29には32回実施される予定。
・本市及び日本におけるクルーズ振興やアジアのクルーズ市場の持続的発展を目的として，第3回福岡クルーズ会議を開催。
- 【課題】・急成長するアジアクルーズ市場を背景に，全国的にクルーズ船誘致活動が活発化しており，クルーズ船社から博多港が寄港港及び発着港として選ばれるように，より活発な誘致活動が必要。
- 【今後】・より高級なラグジュアリークルーズやアジア以外の地域からのクルーズなど多様なクルーズの誘致や，博多港発着クルーズの振興を推進。

クルーズ船の受入体制の整備

- 【進捗】・クルーズ船の大型化や寄港回数の増加に対応するため，中央ふ頭西側において，アジア最大級のクルーズ船を受入れ可能とする岸壁の延伸を進めるとともに観光バスなどに対応した交通広場の整備を完了した。
- 【課題】・クルーズ客船寄港回数の急増や船の大型化による港湾施設の不足。
＊クルーズ船寄港回数：
H25：38回，H26：115回，H27：259回，H28：328回，H29：360回程度予定
うち，外航クルーズ船寄港回数：
H25：22回，H26：99回，H27：245回，H28：314回
- 【今後】・拡大を続けるアジアクルーズへの需要に対応できるよう，岸壁の延伸などの港周辺環境の整備・強化を図る。

クルーズ客の受入体制の整備

- 【進捗】・クルーズ客の円滑な受入や利便性・快適性の向上を目的とした，クルーズ船とクルーズセンター及び岸壁シェルターの間を結ぶ，可動式通路の導入。
＊H29.3月供用開始
・箱崎ふ頭における関係者向けの休憩スペースの整備とトイレの増設。
・舞鶴中学校跡地における駐車場開設〔国による整備，民間運営〕(H27.8)
＊駐車場規模：一般車241台，バス15台
- 【課題】・クルーズ客のツアーが一部の商業施設や観光地に集中しているため，市内で交通混雑が発生。
- 【今後】・本市および関係行政機関，旅行業関係団体，観光・商業施設関係者等で組織した「博多港クルーズ船受入関係者協議会」を活用しながら，クルーズ客用貸切バスによる交通混雑の緩和を目指す。
・FIT（訪日外国人個人旅行）の振興などによる寄港地観光ツアーの多様化に取り組む。
・公有地を活用したバス乗降場，駐車場の確保などに取り組む。

4 重点事業

(1)観光プロモーション事業

目的	福岡に興味関心を持ち、福岡を訪れる。		H28事業費		39,126	千円
			H29事業費		37,041	千円
対象	国内外の旅行者	担当	経済観光文化局観光コンベンション部プロモーション推進課			
実施内容	観光関係協議会における広域連携による取組みに加え、主として、国内では3大都市圏、海外では直行便の就航するアジアの主要都市などに対し、市場の嗜好性に合わせたプロモーションを実施した。					
	○観光関係協議会による活動					
	○現地説明会開催や観光展出展等によるPR					
	○メディア等を活用した情報発信					
	○釜山・福岡アジアゲートウェイ（釜山広域市との共同PR）					
	○「WITH THE KYUSHU プロジェクトー今こそ九州観光ー」					
	指標内容		H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	情報発信・招請事業の件数		15	16	107%	a
成果の指標	外国人入国者数		1,500,000	2,574,787	172%	
補足	ー					

(2)戦略的情報発信事業<旧：国内外観光プロモーション事業>

目的	福岡に関心を持ち、福岡を訪れる。		H28事業費	6,640 千円		
			H29事業費	6,576 千円		
対象	国内外の旅行者	担当	経済観光文化局観光コンベンション部プロモーション推進課			
実施内容	実行委員会及び（公財）福岡観光コンベンションビューローへ負担金を拠出し広報物を制作・配布					
	・福岡観光ガイドブックの作成 （作成部数；日本語48万冊・英語7万冊・韓国語5万冊・中国語6万冊（繁体字3万冊・簡体字3万冊）） ・福岡観光ポスターの印刷，配布					
		指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	観光ガイドブックの発行部数		－	660,000	－	a
成果の指標	外国人入国者数		1,500,000	2,574,787	172%	
補足	－					

(3)欧州プロモーション事業（終了）

目的	福岡の認知度が高まり、福岡を頻繁に訪れてもらう。		H28事業費		3,000	千円
			H29事業費		0	千円
対象	フランス・イギリス・ドイツを中心とした欧州市場	担当	経済観光文化局観光コンベンション部プロモーション推進課			
実施内容	福岡市の認知度向上を図るため、フランスやイギリス等で発行される雑誌を活用した情報発信を実施した。					
	指標内容		H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	プロモーション件数		3	3	100%	a
成果の指標	外国人入国者数		1,500,000	2,574,787	172%	
補足	－					

(4)クルーズ客船誘致活動の推進・受入体制の充実強化①外国クルーズ客船受入事業（A）

目的	スムーズに観光やショッピングを楽しみ、クルーズ客の満足度が上がる。		H28事業費	11,857	千円
			H29事業費	9,325	千円
対象	クルーズ客	担当	経済観光文化局観光コンベンション部プロモーション推進課		
実施内容	（１）着岸場所（岸壁・博多港国際ターミナル）での対応 ①岸壁での歓迎演出の実施 ②クルーズセンターでの語学ボランティアによる観光案内の実施等				
	（２）受入体制等の充実 ①九州観光推進機構と連携した多言語ガイド研修の実施 ②旅行会社・商業施設等と連携した寄港地観光ツアーの実施				
	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	受入体制の充実	－	－	－	a
成果の指標	外航クルーズ客船の寄港回数（暦年）	130	314	242%	
補足	－				

(5)クルーズ客船誘致活動の推進・受入体制の充実強化②外国クルーズ客船受入事業（B）

目的	スムーズに観光やショッピングを楽しみ、クルーズ客の満足度が上がる。		H28事業費		1,721	千円
			H29事業費		2,778	千円
対象	クルーズ客	担当	経済観光文化局観光コンベンション部プロモーション推進課			
実施内容	観光情報などの広報媒体を制作し、クルーズ客へ配布 ・観光マップ増刷：2万部 ・記念品作成：10万枚					
		指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	観光リーフレット増刷部数		—	20,000	—	a
成果の指標	外航クルーズ客船の寄港回数（暦年）		130	314	242%	
補足	—					

(6)クルーズ客船誘致活動の推進・受入体制の充実強化③（クルーズ客船誘致事業）

目的	クルーズ港としての博多港の認知度・イメージを向上し、北東アジアのクルーズ市場における博多港の地位を確立し、クルーズ客船の寄港増加・定着化につなげる。		H28事業費	11,355	千円	
			H29事業費	11,694	千円	
対象	船社・旅行代理店等	担当	経済観光文化局観光コンベンション部クルーズ課			
実施内容	●多様なクルーズ客船の誘致 ・海外船社、国内クルーズ関係企業等に訪問し、寄港誘致 ・海外コンベンションに参加し、クルーズ港としての博多港をPR					
	●博多港発着クルーズの振興 ・市民クルーズ、市民船内見学会等を実施 ・海外船社による日本海側定期定点クルーズの受入体制を他港と連携し強化 ・福岡クルーズ会議を開催					
	指標内容		H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	海外クルーズコンベンションへの参加回数		2	2	100%	
成果の指標	外航クルーズ客船の寄港回数（暦年）		130	314	242%	
補足	－					